

深見けん二先生作品三十句

雲は白妙バレンタインのチョコレート
薄氷の波の光にまぎれなく
秀峰祝「秀」創刊の軒端に聳え牡丹咲く
一匹の蠅黒々と白き椅子
師の一語父の一語や走馬燈
来し方の長く短し水澄める
雨雫こぼし穂靠早の末枯るる
天上の君も加はり初句会
家々の遅速はあれど梅日和
開き初むこの白さこそ花辛夷
唇に雨の一滴つばくらめ
一と部屋の暮し始まり雲の峰
金星の輝いてゐる虫の闇
あれほどの日和なりしも暮早し

満開にして紅白や庭の梅
豆本も調度の一つ雛飾る
見納めと思ひし花を今年又
わが撮れる写真も旧りし虚子忌かな
狭山茶の今年のこくをたつぷりと
芍薬や父の遠忌も一と日過ぎ
晩年の更に晩年 鰯雲
秋晴の珠の一と日もまたたく間
よき友を持ち長命や菊日和
おだやかな一日なれど日短
卒寿なるガールフレンド初電話
仰ぎ見て更に仰げる桜かな
何時しかに白寿に近く子規祀る
あれほどの残暑もいつか露けしや
百歳は近くて遠し星祭る
うかうかとひいて白寿の春の風邪

（「秀」誌より染谷秀雄抽出）